

平成 27 年 6 月現在

関係者各位

一般社団法人 日本消火装置工業会

泡消火設備における泡消火薬剤の混合使用について

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素から消防用設備の維持管理には特段のご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、現在、駐車場等に設置する泡消火設備の泡消火薬剤として P F O S 含有の泡消火薬剤が広く使用されていますが、今般 P F O S を含有している泡消火薬剤は「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」（以下、化審法）により製造・輸入が出来なくなりました。

現在、P F O S 含有の泡消火薬剤を使用している泡消火設備は、点検時等の補充が必要な場合にも、補充ができないこととなります。泡消火薬剤は検定対象品目であり、他の薬剤と混合することは技術上の規格に適合しないこととなりますが、点検時等で P F O S 含有泡消火薬剤を廃棄し、他の新しい薬剤に入れ替えることは、各防火対象物の関係者に多大な経費負担を強いることになるとともに、多量の廃棄物を生じることとなります。

このため、消防庁から泡消火薬剤の補充（混合）に関する取り扱いが示されておりますので、泡消火設備の機能を維持するため、その取り扱い等についてご案内いたしますので、ご理解の上実施して頂きますようお願い申し上げます。

敬具

— 記 —

1. P F O S 含有泡消火薬剤について

別表 1 を参照して下さい。

2. P F O S 含有泡消火薬剤との混合使用について

1) 全量を他の薬剤と交換する場合には、既設のフォームヘッドとの組み合わせにおいて性能評定を取得している泡消火薬剤と交換して下さい。

2) 補充（混合）をする場合は、下記の事項に留意して行って下さい。

(1) 混合使用ができる泡消火薬剤の種類

- ① 補充（混合）する泡消火薬剤は、P F O S 含有泡消火薬剤と任意の割合で混合した場合において、規格省令に規定する基準に適合していることが確認されていることが必要です。
- ② 補充（混合）する泡消火薬剤は、1 種類に限定されています。
- ③ 使用するフォームヘッドは、P F O S 含有泡消火薬剤及び補充する泡消火薬剤のいずれと組み合わせても所要の性能を有することが確認されていることが必要です。

(2) 当初貯蔵していた泡消火薬剤に泡消火薬剤を補充する行為

- ① 初回の補充（混合）に限り本行為は「軽微な工事」とみなされ、甲種消防設備士の業務範囲となり、届出関係は表-1 のとおり扱われますが、事前に所轄消防署の確認を得て下さい。

表-1 届出書類等の要否

届出書類等	要否	記 事
着工届	不要	—
設置届	要	設置届には、試験結果報告書に替え、「当初貯蔵されていた泡消火薬剤」と補充する泡消火薬剤との適合性を確認した資料を添付する必要があります。
設置届に伴う現場確認	省略	※消防検査は省略されます。

- ② 2 回目以降の補充（混合）については、「整備」とみなされ、着工届、設置届及び消防検査は不要となりますが、事前に所轄消防署の確認を得て下さい。

(3) 表 示

当初貯蔵していた泡消火薬剤と他の泡消火薬剤を混合した場合には、その旨を泡消火薬剤貯蔵槽の見やすい箇所に「水成膜泡消火薬剤の混合済表示シール」を貼付して表示する必要があります。表示シールは図 1 「泡消火薬剤の混合済表示シール（例）」によるものとし、泡消火薬剤メーカーから入手して下さい。

(4) 記 録

当初貯蔵していた泡消火薬剤と他の泡消火薬剤を混合した場合には、必ず点検票に混合した年月日、泡消火薬剤の種類及び補充量を記録しておいて下さい。

(5) 混合使用の適合性

当初貯蔵していた泡消火薬剤に任意の割合で混合使用した場合において、規格省令に規定する基準に適合していることが確認されている泡消火薬剤及びフォームヘッドの適合性については、表-2を参照して下さい。


表-2 組み合わせ適合表

(平成27年6月現在)

当初貯蔵していた泡消火薬剤に任意の割合で混合した場合に所要の性能を有することが確認されているフォームヘッド			当初貯蔵していた泡消火薬剤		左記当初貯蔵していた泡消火薬剤に補充(混合)して差し支えない泡消火薬剤	
社名	フォームヘッド型式	性能 評価番号	DIC(株)	ヤマトプロテック(株)	DIC(株)	ヤマトプロテック(株)
			商品名 検定型式 番号	商品名 検定型式 番号	商品名 検定型式 番号	商品名 検定型式 番号
			メガフォーム F-623	アルファフォーム 310	メガフォーム F-623T	アルファフォーム 310R
			泡第1~6号 (3%型)	泡第10~1号 (3%型)	泡第17~3号 (3%型)	泡第19~26 (3%型)
能美防災(株)	NHO 53	221T121	○		○	
	NHO 53A	221T121-1	○		○	
	NHO 54 ※	221T157	○		○	
(株)初田製作所	HFH-35T	221T132	○		○	
	HFH-35E	221T141	○		○	
	HFH-20P ※	221T142	○		○	
	HFH-35S	221T169	○		○	
	HFH-20S ※	221T170	○		○	
宮田工業(株)	MFH-35-2	221T113	○		○	
	MFH-20 ※	221T166	○		○	
ヤマトプロテック(株)	YLH-35N	221T131		○		○
	YAH-35	221T139		○		○
	YAH-20 ※	221T140		○		○
	YAH-35T	221T158		○		○
千住スプリンクラー(株)	SMF-01	221T148	○		○	
	SHF-20 ※	221T160	○		○	
(株)立売堀製作所	IFH-35E	221T143	○		○	
	IAH-20P ※	221T144	○		○	
	IAH-20 ※	221T163		○		○
	IAH-35T	221T164		○		○
	ISAH-35	221T167		○		○
	ISAH-20 ※	221T168		○		○
日信防災(株)	BNH053A	221T176	○		○	

《記事》 1. 表中の○印は、平成27年6月現在において混合使用の適合性が確認されている組み合わせを示す。(尚、追加で混合使用の適合性が確認されたものについては随時更新予定。)
2. 表中のフォームヘッド型式の※印は側壁型のヘッドを示す。

図1 水成膜泡消火薬剤の混合済表示シール(例)

水成膜泡消火薬剤の混合について		
水成膜泡消火薬剤は国家検定品であり、混合して使用することは認められていませんが、以下の泡消火薬剤に限り、当初貯蔵していた泡消火薬剤に混合した場合の性能が確認されております。		
 注意	以下に示す泡消火薬剤以外を補充(混合)してはいけません。	
	補充(混合)できる泡消火薬剤	製造者名 ○○○○株式会社 商品名 △△△△△△△△ 型式番号 泡第□□~□□号
最初に補充(混合)した年月日	年 月 日	

《注意》

- 混合済み表示シールには上記記載用件を印刷すること。
- 製造者名「○○○○株式会社」は、混合する泡消火薬剤の製造業者名とすること。
- 商品名「△△△△△△△△」は、補充(混合)する泡消火薬剤の商品名とすること。
- 型式番号「泡第□□~□□号」は、補充(混合)する泡消火薬剤の検定型式番号とすること。
- 最初に補充(混合)した年月日は、作業日を記入すること。

《貼付シールの仕様例》

- 大きさ: 幅150mm×高さ105mm
- 地色: 銀色
- 文字色: 黒色
- 字体: 角ゴシック
- 材質: ポリエステルフィルムアルミ蒸着材
- その他: 裏面糊付

3) その他

その他不明な点については、下記「お問い合わせ先」、別表2「水成膜泡消火薬剤の混合に関する問い合わせ窓口」、各防災メーカー、各泡消火薬剤メーカー又は、各点検業者等にお問い合わせ下さい。

<p>● お問い合わせ先</p>	<p>一般社団法人 日本消防装置工業会 〒105-0003 東京都港区西新橋2-18-2 (NKKビル4階) TEL. 03-5404-2181 FAX. 03-5404-7371 URL: http://www.shosoko.or.jp/</p>
------------------	--

平成 27 年 6 月現在

関係者各位

一般社団法人 日本消火装置工業会

閉鎖型噴霧消火システムにおける噴霧消火剤の混合使用について

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素から消防用設備の維持管理には特段のご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、現在、駐車場等に設置する閉鎖型噴霧消火システムの噴霧消火剤として P F O S 含有の噴霧消火剤が使用されていますが、今般 P F O S を含有している噴霧消火剤は「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」（以下、化審法）により製造・輸入が出来なくなりました。

現在、P F O S 含有の噴霧消火剤を使用している閉鎖型噴霧消火システムは、点検時等の補充が必要な場合にも、補充ができないこととなります。噴霧消火剤は性能鑑定対象品目であり、他の薬剤と混合することは技術上の規格に適合しないこととなりますが、点検時等で P F O S 含有噴霧消火剤を廃棄し、他の新しい消火剤に入れ替えることは、各防火対象物の関係者に多大な経費負担を強いることになるとともに、多量の廃棄物を生じることとなります。

このため、消防庁から噴霧消火剤の補充（混合）に関する取り扱いが示されておりますので、閉鎖型噴霧消火システムの機能を維持するため、その取り扱い等についてご案内いたしますので、ご理解の上実施して頂きますようお願い申し上げます。

敬具

－記－

1. P F O S 含有噴霧消火剤について

別表 1 を参照して下さい。

2. P F O S 含有噴霧消火剤との混合使用について

1) 全量を他の消火剤と交換する場合には、既設の閉鎖型噴霧消火システムに適合（表－2 参照）している泡消火薬剤と交換して下さい。

2) 補充（混合）をする場合は、下記の事項に留意して行って下さい。

(1) 混合使用ができる泡消火薬剤の種類

- ① 補充（混合）する泡消火薬剤は、P F O S 含有噴霧消火剤と任意の割合で混合した場合において、噴霧消火剤の性能鑑定基準に適合していることが確認されていることが必要です。
- ② 補充（混合）する泡消火薬剤は、1 種類に限定されています。
- ③ 使用するシステムは、P F O S 含有噴霧消火剤及び補充する泡消火薬剤のいずれと組み合わせても所要の性能を有することが確認されていることが必要です。

(2) 当初貯蔵していた噴霧消火剤に泡消火薬剤を補充する行為

- ① 初回の補充（混合）に限り本行為は「軽微な工事」とみなされ、甲種消防設備士の業務範囲となり、届出関係は表－1 のとおり扱われますが、事前に所轄消防署の確認を得て下さい。

表－1 届出書類等の要否

届出書類等	要否	記 事
着工届	不要	—
設置届	要	設置届には、試験結果報告書に替え、「当初貯蔵されていた噴霧消火剤」と補充する泡消火薬剤との適合性を確認した資料を添付する必要があります。
設置届に伴う現場確認	省略	※消防検査は省略されます。

- ② 2 回目以降の補充（混合）については、「整備」とみなされ、着工届、設置届及び消防検査は不要となりますが、事前に所轄消防署の確認を得て下さい。

(3) 表 示

当初貯蔵していた噴霧消火剤と他の泡消火薬剤を混合した場合には、その旨を噴霧消火剤貯蔵槽の見やすい箇所に「噴霧消火剤の混合済表示シール」を貼付して表示する必要があります。表示シールは図 1 「噴霧消火剤の混合済表示シール（例）」によるものとし、噴霧消火剤メーカーから入手して下さい。

(4) 記 録

当初貯蔵していた噴霧消火剤と他の泡消火薬剤を混合した場合には、必ず点検票に混合した年月日、泡消火薬剤の種類及び補充量を記録しておいて下さい。

(5) 混合使用の適合性

当初貯蔵していた噴霧消火剤に任意の割合で混合使用した場合において、噴霧消火剤の性能鑑定基準に適合していることが確認されている泡消火薬剤及びシステムの適合性については、表-2を参照して下さい。

表-2 組み合わせ適合表

(平成27年6月現在)

当初貯蔵していた噴霧消火剤に任意の割合で混合した場合に所要の性能を有することが確認されているシステム		当初貯蔵していた噴霧消火剤	左記当初貯蔵していた噴霧消火剤に補充(混合)して差し支えない泡消火薬剤
社名		能美防災(株)	DIC(株)
噴霧消火システム及び性能鑑定番号	噴霧消火剤及び泡消火薬剤品名	噴霧消火剤 NCA211	泡消火薬剤 NCA211T
	性能鑑定番号及び検定型式番号	鑑特第116号 (2%型)	泡第22~9号 (2%型)
能美防災(株)	閉鎖型噴霧消火システム	○	○
	閉鎖型噴霧消火システム (クローズドNS式)	○	○
	閉鎖型噴霧消火システム (クローズ湿式)	○	○

《記事》 表中の○印は、平成27年6月現在において混合使用の適合性が確認されている組み合わせを示す。(尚、追加で混合使用の適合性が確認されたものについては随時更新予定。)

図1 噴霧消火剤の混合済表示シール(例)

噴霧消火剤の混合について							
噴霧消火剤は性能鑑定品であり、混合して使用することは認められていませんが、以下の泡消火薬剤に限り、当初貯蔵していた噴霧消火剤に混合した場合の性能が確認されております。							
注意	以下に示す泡消火薬剤以外を補充(混合)してはいけません。						
補充(混合)できる泡消火薬剤	<table border="1"> <tr> <td>製造者名</td> <td>〇〇〇〇株式会社</td> </tr> <tr> <td>商品名</td> <td>△△△△△△△△</td> </tr> <tr> <td>型式番号</td> <td>泡第□□~□□号</td> </tr> </table>	製造者名	〇〇〇〇株式会社	商品名	△△△△△△△△	型式番号	泡第□□~□□号
製造者名	〇〇〇〇株式会社						
商品名	△△△△△△△△						
型式番号	泡第□□~□□号						
最初に補充(混合)した年月日	年 月 日						

《注意》

- 混合済み表示シールには上記記載用件を印刷すること。
- 製造者名「〇〇〇〇株式会社」は、混合する泡消火剤の製造業者名とすること。
- 商品名「△△△△△△△△」は、補充(混合)する泡消火薬剤の商品名とすること。
- 型式番号「泡第□□~□□号」は、補充(混合)する泡消火薬剤の検定型式番号とすること。
- 最初に補充(混合)した年月日は、作業日を記入すること。

《貼付シールの仕様例》

- 大きさ：幅150mm×高さ105mm
- 地色：銀色
- 文字色：黒色
- 字体：角ゴシック
- 材質：ポリエステルフィルムアルミ蒸着材
- その他：裏面糊付

3) その他

その他不明な点については、下記「お問い合わせ先」、別表2「水成膜泡消火薬剤の混合に関する問い合わせ窓口」、各防災メーカー、各泡消火薬剤メーカー又は、各点検業者等にお問い合わせ下さい。

- お問い合わせ先

一般社団法人 日本消火装置工業会
〒105-0003 東京都港区西新橋2-18-2 (NKKビル4階)
TEL. 03-5404-2181 FAX. 03-5404-7371
URL: http://www.shosoko.or.jp/

平成 27 年 6 月現在

関係者各位

一般社団法人 日本消火装置工業会

閉鎖型泡消火システムにおける泡消火薬剤の混合使用について

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素から消防用設備の維持管理には特段のご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、現在、駐車場等に設置する閉鎖型泡消火システムの泡消火薬剤として P F O S 含有の泡消火薬剤が使用されていますが、今般 P F O S を含有している泡消火薬剤は「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」（以下、化審法）により製造・輸入が出来なくなりました。

現在、P F O S 含有の泡消火薬剤を使用している閉鎖型泡消火システムは、点検時等の補充が必要な場合にも、補充ができないこととなります。泡消火薬剤は検定対象品目であり、他の薬剤と混合することは技術上の規格に適合しないこととなりますが、点検時等で P F O S 含有泡消火薬剤を廃棄し、他の新しい泡消火薬剤に入れ替えることは、各防火対象物の関係者に多大な経費負担を強いることになるとともに、多量の廃棄物を生じることとなります。

このため、消防庁から泡消火薬剤の補充（混合）に関しての取り扱いが示されておりますので、閉鎖型泡消火システムの機能を維持するため、その取り扱い等についてご案内いたしますので、ご理解の上実施して頂きますようお願い申し上げます。

敬具

— 記 —

1. P F O S 含有泡消火薬剤について

別表 1 を参照して下さい。

2. P F O S 含有泡消火薬剤との混合使用について

1) 全量を他の薬剤と交換する場合には、既設のシステムとの組み合わせにおいて性能鑑定も取得している泡消火薬剤と交換して下さい。

2) 補充（混合）をする場合は、下記の事項に留意して行って下さい。

(1) 混合使用ができる泡消火薬剤の種類

- ① 補充（混合）する泡消火薬剤は、P F O S 含有泡消火薬剤と任意の割合で混合した場合において、規格省令に規定する基準に適合していることが確認されていることが必要です。
- ② 補充（混合）する泡消火薬剤は、1 種類に限定されています。
- ③ 使用するシステムは、P F O S 含有泡消火薬剤及び補充する泡消火薬剤のいずれと組み合わせても所要の性能を有することが確認されていることが必要です。

(2) 当初貯蔵していた泡消火薬剤に他の泡消火薬剤を補充する行為

- ① 初回の補充（混合）に限り本行為は「軽微な工事」とみなされ、甲種消防設備士の業務範囲となり、届出関係は表-1 のとおり扱われますが、事前に所轄消防署の確認を得て下さい。

表-1 届出書類等の要否

届出書類等	要否	記 事
着工届	不要	—
設置届	要	設置届には、試験結果報告書に替え、「当初貯蔵されていた泡消火薬剤」と補充する泡消火薬剤との適合性を確認した資料を添付する必要があります。
設置届に伴う現場確認	省略	※消防検査は省略されます。

- ② 2 回目以降の補充（混合）については、「整備」とみなされ、着工届、設置届及び消防検査は不要となりますが、事前に所轄消防署の確認を得て下さい。

(3) 表 示

当初貯蔵していた泡消火薬剤と他の泡消火薬剤を混合した場合には、その旨を泡消火剤貯蔵槽の見やすい箇所に「泡消火薬剤の混合済表示シール」を貼付して表示する必要があります。表示シールは図 1 「泡消火薬剤の混合済表示シール（例）」によるものとし、泡消火薬剤メーカーから入手して下さい。

(4) 記 録

当初貯蔵していた泡消火薬剤と他の泡消火薬剤を混合した場合には、必ず点検票に混合した年月日、泡消火薬剤の種類及び補充量を記録しておいて下さい。

(5) 混合使用の適合性

当初貯蔵していた泡消火薬剤に任意の割合で混合使用した場合において、規格省令に規定する基準に適合していることが確認されている泡消火薬剤及びシステムの適合性については、表-2を参照して下さい。


表-2 組み合わせ適合表

(平成27年6月現在)

当初貯蔵していた泡消火薬剤に任意の割合で混合した場合に 所要の性能を有することが確認されているシステム		当初貯蔵していた泡消火薬剤		左記当初貯蔵していた泡消火薬剤に補充 (混合)して差し支えない泡消火薬剤	
社名	泡消火薬剤品名		ヤマトエンジニアリング(株)	ヤマトプロテック(株)	ヤマトプロテック(株)
	泡消火システム及び性能鑑定番号		CFフォーム	アルファフォーム310	アルファフォーム310R
ヤマトプロテック(株)	閉鎖型泡消火システム(CFシステム)	鑑定型式番号	(泡第15~4号) (3%型)	(泡第10~1号) (3%型)	泡第19~26号 (3%型)
	閉鎖型泡消火システム(CFシステムⅡ)	鑑定型式番号	○	○	○

《記事》 表中の○印は、平成27年6月現在において混合使用の適合性が確認されている組み合わせを示す。
(尚、追加で混合使用の適合性が確認されたものについては随時更新予定。)

図1 水成膜泡消火薬剤の混合済表示シール(例)

水成膜泡消火剤の混合について		
水成膜泡消火薬剤は国家検定品であり、混合して使用することは認められていませんが、以下の泡消火薬剤に限り、当初貯蔵していた泡消火薬剤に混合した場合の性能が確認されております。		
 注意	以下に示す泡消火薬剤以外を補充(混合)しては いけません。	
補充(混合)できる泡消火薬剤	製造者名	〇〇〇〇株式会社
	商品名	△△△△△△△△
	型式番号	泡第□□~□□号
最初に補充(混合)した年月日	年 月 日	

《注意》

- 混合済み表示シールには上記記載用件を印刷すること。
- 製造者名「〇〇〇〇株式会社」は、混合する泡消火薬剤の製造業者名とすること。
- 商品名「△△△△△△△△」は、補充(混合)する泡消火薬剤の商品名とすること。
- 型式番号「泡第□□~□□号」は、補充(混合)する泡消火薬剤の鑑定型式番号とすること。
- 最初に補充(混合)した年月日は、作業日を記入すること。

《貼付シールの仕様例》

- 大きさ：幅150mm×高さ105mm
- 地色：銀色
- 文字色：黒色
- 字体：角ゴシック
- 材質：ポリエステルフィルムアルミ蒸着材
- その他：裏面糊付

3) その他

その他不明な点については、下記「お問い合わせ先」、別表2「水成膜泡消火薬剤の混合に関する問い合わせ窓口」、各防災メーカー、各泡消火薬剤メーカー又は、各点検業者等にお問い合わせ下さい。

● お問い合わせ先	一般社団法人 日本消防装置工業会 〒105-0003 東京都港区西新橋2-18-2 (NKKビル4階) TEL. 03-5404-2181 FAX. 03-5404-7371 URL: http://www.shosoko.or.jp/
-----------	---

関係者各位

一般社団法人 日本消火装置工業会

泡消火設備における泡消火薬剤の混合使用について

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素から消防用設備の維持管理には特段のご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、現在、駐車場等に設置する泡消火設備の水成膜泡消火薬剤として住友スリーエム株式会社製のライトウォーター水成膜泡消火薬剤（泡第 53 号～5 号及び第 51 号～7 号 以下「LW」という。）が広く使用されていますが、製造者の都合により既に製造中止となっております。

現在、「LW」を使用している泡消火設備は、点検時等の放出により「LW」の補充が必要な場合にも、在庫がなくなった時点で補充ができないこととなります。泡消火薬剤は、検定対象品目であり、他の薬剤と混合することは技術上の規格に適合しないこととなりますが、点検時等で残った「LW」を廃棄し、他の新しい薬剤に入れ替えることは、各防火対象物の関係者に多大な経費負担を強いることになるとともに、多量の廃棄物を生じることとなります。

このため、消防庁から泡消火薬剤の補充（混合）に関する取り扱いが示されておりますので、泡消火設備の機能を維持するため、その取り扱い等についてご案内いたしますので、ご理解の上実施して頂きますようお願い申し上げます。

敬具

－記－

1. 全量を他の薬剤と交換する場合には、既設のフォームヘッドとの組み合わせにおいて性能評定を取得している泡消火薬剤と交換して下さい。

2. 補充（混合）をする場合は、下記の事項に留意して行って下さい。

1) 混合使用ができる泡消火薬剤の種類

- ① 補充（混合）する水成膜泡消火薬剤は、「LW」と任意の割合で混合した場合において、規格省令に規定する基準に適合していることが確認されていることが必要です。
- ② 補充（混合）する水成膜泡消火薬剤は、1 種類に限定されています。
- ③ 使用するフォームヘッドは、「LW」及び補充する水成膜泡消火薬剤のいずれと組み合わせても所要の性能を有することが確認されていることが必要です。

2) 「LW」に水成膜泡消火薬剤を補充する行為

- ① 初回の補充（混合）に限り本行為は「軽微な工事」とみなされ、甲種消防設備士の業務範囲となり、届出関係は表-1 のとおり扱われますが、事前に所轄消防署の確認を得て下さい。

表-1 届出書類等の要否

届出書類等	要否	記 事
着工届	不要	—
設置届	要	設置届には、試験結果報告書に替え、「LW」と補充する水成膜泡消火薬剤との適合性を確認した資料を添付する必要があります。
設置届に伴う現場確認	省略	※消防検査は省略されます。

- ② 2 回目以降の補充（混合）については、「整備」とみなされ、着工届、設置届及び消防検査は不要となりますが、事前に所轄消防署の確認を得て下さい。

3) 表 示

「LW」と他の水成膜泡消火薬剤を混合した場合には、その旨を泡消火薬剤貯蔵槽の見やすい箇所に「水成膜泡消火薬剤の混合済表示シール」を貼付して表示する必要があります。表示シールは図 1 「水成膜泡消火薬剤の混合済表示シール（例）」によるものとし、泡消火薬剤メーカーから入手して下さい。

4) 記 録

「LW」と他の水成膜泡消火薬剤を混合した場合には、必ず点検票に混合した年月日、水成膜泡消火薬剤の種類及び補充量を記録しておいて下さい。

5) 混合使用の適合性

「LW」に混合使用できる水成膜泡消火薬剤及びフォームヘッドの適合性については、表-2 を参照して下さい。

表-2 組み合わせ適合表

(平成 27 年 6 月現在)

補充(混合)した水成膜泡消火薬剤に使用することができるフォームヘッド			補充(混合)して差し支えない水成膜泡消火薬剤							
社名	泡消火薬剤商品名 検定型式番号 フォーム性能 ヘッド型式、 評価番号	型式番号	ヤマト プロテック(株)	日本ドライ ケミカル(株)	第一化成産業(株)		深田工業(株)	㈱初田 製作所	日新理化産業(株)	
			アルファ ※2 フォーム 310	エクステン サーフ ウォーターⅢ	DKウォーター		フカダ・ フロロウオ ーターF	ハツタニュー フォーム AF ³ ※1※2	フロロフィルム フォーム ※2	
			泡第 10~1号 (3%型)	泡第 10~6号 (3%型)	泡第 10~3号 (3%型)	泡第 15~2号 (6%型)	泡第 13~1号 (3%型)	泡第 14~4号 (3%型)	泡第 1~3号 (3%型)	泡第 1~2号 (6%型)
ニッタン(株)	FL-35-1	221T119-1			○	○			○	○
	FL-35	221T119			○	○				
	FL20 ※	221T155			○				○	
ホーチキ(株)	FB-35	221T126	○	○					○	
	GFH-C35	221T165	○	○	○					
	GFH-AW25※	221T145		○						
千住 スプリンター(株)	SMF-01	221T148	○	○	○		○	○	○	
	SHF-20 ※	221T160	○	○	○		○	○	○	
	SFH35	221T123		○						○
宮田工業(株)	MFH-20 ※	221T166	○	○	○		○			
	MFH-35-2	221T113			○	○				
㈱宮本工業所	KMF-01	221T153	○	○						
㈱モリタ	MMF-01	221T151	○	○	○		○			
ヤマト プロテック(株)	YAH-20 ※	221T140	○							
	YAH-35T	221T158	○							
	YLH-35N	221T131	○							
	YAH-35	221T139	○							
日本ドライ ケミカル(株)	FHC-35	221T150		○						
	FHS-20 ※	221T161		○						
	FH-35	221T122		○						
五十鈴工業(株)	IAH-20 ※	221T163	○							
	IAH-35T	221T164	○							
㈱初田製作所	HFH-35T	221T132						○		
	HFH-35E	221T141						○		
	HFH-20P ※	221T142						○		
	HFH-35S	221T169	○	○	○		○	○	○	
	HFH-20S ※	221T170	○	○	○		○	○	○	
能美防災(株)	NH053	221T121							○	○
	NH053A	221T121-1							○	○
	NH054 ※	221T157							○	
日信防災(株)	BNH053A	221T154							○	○
㈱立売堀 製作所	IFH-35E	221T143						○		
	IFH-20P※	221T144						○		

《記事》 1. ○印は、適合する組み合わせを示す。 2. フォームヘッド型式の※印は側壁型のヘッドを示す。
 3. ※1のハツタニューフォーム AF³の現在の商品名は、ハツタニューフォーム AF - 103 です。
 4. ※2の泡消火薬剤は、現在製造中止となっています。(対応方法についてはメーカーにお問い合わせください。)
 (尚、追加で混合使用の適合性が確認されたものについては随時更新予定。)

図 1 水成膜泡消火薬剤の混合済表示シール(例)

水成膜泡消火薬剤の混合について							
水成膜泡消火薬剤は国家検定品であり、混合して使用することは認められていませんが、以下の泡消火薬剤に限り、当初貯蔵していたライトウォーターに混合した場合の性能が確認されております。							
⚠ 注意	以下に示す泡消火薬剤以外を補充(混合)してはいけません。						
	補充(混合)できる泡消火薬剤	<table border="1"> <tr> <td>製造者名</td> <td>〇〇〇〇株式会社</td> </tr> <tr> <td>商品名</td> <td>△△△△△△△△</td> </tr> <tr> <td>型式番号</td> <td>泡第□□~□□号</td> </tr> </table>	製造者名	〇〇〇〇株式会社	商品名	△△△△△△△△	型式番号
製造者名	〇〇〇〇株式会社						
商品名	△△△△△△△△						
型式番号	泡第□□~□□号						
最初に補充(混合)した年月日		年 月 日					

《注意》

- 混合済み表示シールには上記記載要件を印刷すること。
- 製造者名「〇〇〇〇株式会社」は、混合する泡消火薬剤の製造業者名とすること。
- 商品名「△△△△△△△△」は、補充(混合)する泡消火薬剤の商品名とすること。
- 型式番号「泡第□□~□□号」は、補充(混合)する泡消火薬剤の検定型式番号とすること。
- 最初に補充(混合)した年月日は、作業日を記入すること。

《貼付シールの仕様例》

- 大きさ: 幅 150mm × 高さ 105mm
- 地色: 銀色
- 文字色: 黒色
- 字体: 角ゴシック
- 材質: ポリエステルフィルムアルミ蒸着材
- その他: 裏面糊付

3. その他

その他不明な点については、下記「お問い合わせ先」、別表2「水成膜泡消火薬剤の混合に関する問い合わせ窓口」、各防災メーカー、各泡消火薬剤メーカー又は、各点検業者等にお問い合わせ下さい。

● お問い合わせ先 一般社団法人 日本消防装置工業会
 〒105-0003 東京都港区西新橋2-18-2 (NKKビル4階)
 TEL. 03-5404-2181 FAX. 03-5404-7371

別表 1

P F O S を含有する泡消火薬剤（水溶性液体用を除く）一覧表

No.	泡薬剤の型式番号	製造者名	商品名	型式
1	泡第 51～7 号	住友スリーエム(株)	ライトウォーター FC-3031	水成膜泡 6% (-5℃～+30℃)
2	泡第 53～5 号	住友スリーエム(株)	ライトウォーター FC-3033	水成膜泡 3% (-5℃～+30℃)
3	泡第 60～2 号	住友スリーエム(株)	ライトウォーター FC-3103	水成膜泡 3% (-10℃～+30℃)
4	泡第 60～5 号	住友スリーエム(株)	ライトウォーター FC-3104	水成膜泡 6% (-10℃～+30℃)
5	泡第 8～1 号	住友スリーエム(株)	ライトウォーター FC-3073	水成膜泡 3% (-20℃～+30℃)
6	泡第 1～6 号	D I C (株)	メガフォーム F - 623	水成膜泡 3% (-10℃～+30℃)
7	泡第 1～7 号	D I C (株)	メガフォーム F - 626	水成膜泡 6% (-10℃～+30℃)
8	泡第 4～4 号	D I C (株)	メガフォーム F - 633S	水成膜泡 3% (-20℃～+30℃)
9	泡第 7～1 号	D I C (株)	メガフォーム AGF	合成界面泡 6% (-5℃～+30℃)
10	泡第 8～2 号	D I C (株)	メガフォーム N - 103	水成膜泡 3% (-10℃～+30℃)
11	泡第 11～1 号	D I C (株)	メガフォーム AGF-3	合成界面泡 3% (-5℃～+30℃)
12	泡第 9～3 号	深田工業(株)	フカダ・フロアルコフォーム G	たん白泡 6% (-10℃～+30℃)
13	泡第 10～5 号	深田工業(株)	フカダ・フロアルコフォーム G	たん白泡 3% (-10℃～+30℃)
14	泡第 10～1 号	ヤマトプロテック(株)	アルファフォーム 310	水成膜泡 3% (-10℃～+30℃)
15	泡第 11～2 号	ヤマトプロテック(株)	アルファフォーム 320	水成膜泡 3% (-20℃～+30℃)
16	泡第 11～5 号	ヤマトプロテック(株)	アルファフォーム 605	水成膜泡 6% (-5℃～+30℃)
17	泡第 15～4 号	ヤマトエンジニアリング(株)	CF フォーム 310	水成膜泡 3% (-10℃～+30℃)
18	泡第 1～5 号	(株)初田製作所	ハツタフォーム AF ³ (-10℃)	水成膜泡 3% (-10℃～+30℃)
19	泡第 63～9 号	(株)初田製作所	ハツタフォーム AF ³ (-20℃)	水成膜泡 3% (-20℃～+30℃)

P F O S を含有する泡消火薬剤（水溶性液体用）一覧表

No.	製造者名	商品名	型式
1	住友スリーエム(株)	ライトウォーター ATCFC-3035	水溶性液体用泡消火薬剤
2	住友スリーエム(株)	ライトウォーター ATCFC-600	水溶性液体用泡消火薬剤
3	D I C (株)	メガフォーム F-610AT	水溶性液体用泡消火薬剤
4	D I C (株)	メガフォーム AT-3	水溶性液体用泡消火薬剤

P F O S を含有する噴霧消火剤一覧表

No.	泡薬剤の型式番号	製造者名	商品名	型式
1	鑑特第 116 号	能美防災(株)	NCA211	噴霧消火剤 2% (-10℃～+30℃)

《記事》平成 24 年 4 月現在において、P F O S 含有であることが確認されている泡消火薬剤を示す。
 (尚、追加で確認されたものについては随時更新予定。)

水成膜泡消火薬剤の混合及びサンプリング検査に関する問い合わせ窓口

平成 27 年 6 月現在

No.	会社名 (旧社名)	本社所在地・URL	問い合わせ窓口
1	一般社団法人 日本消火装置工業会	〒 105-0003 東京都港区西新橋 2-18-2 NKKビル http://www.shosoko.or.jp/	事務局 TEL 03-5404-2181
2	千住スプリンクラー 株式会社	〒 120-0038 東京都足立区千住橋戸町23 http://www.senjusp.com	営業本部営業技術部 TEL 03-3870-4818
3	第一化成産業 株式会社	〒 101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-7-1 http://www.d-kasei.co.jp/	エア-フォーム事業部営業部 TEL 03-3264-8221
4	D I C 株式会社 (大日本インキ化学 工業株式会社)	〒 103-8233 東京都中央区日本橋3-7-20 http://www.dic-global.com/ja/index.html	フッ素化学品営業部 TEL 03-6733-5933
5	Y S B 株式会社 (ナラケミカル 株式会社)	〒 587-0042 大阪府堺市美原区木材通 2-2-38 大阪工場 http://yamatosougoubousai.com/	Y S B リサイクルセンター TEL 072-361-7518
6	ニッタン株式会社 (株式会社 LIXIL ニッタン)	〒 151-8535 東京都渋谷区笹塚1-54-5 http://www.nittan.com/	営業窓口：全国の支社・支店・営業所 (ホームページ参照) 営業本部施工管理部 TEL 03-5333-7043
7	日本ドライケミカル 株式会社	〒 135-0091 東京都港区台場2-3-1 トレドピア お台場 http://www.ndc-group.co.jp/	設備・メンテナンス営業統括本部 TEL 03-3599-9502 全国の支店・営業所 (ホームページ参照)
8	能美防災株式会社	〒 102-8277 東京都千代田区九段南4-7-3 http://www.nohmi.co.jp/	営業窓口：全国の支社・営業所 (ホームページ参照) 東京地区の営業窓口：営業本部営業 1 部 (TEL:03-3265-0326) 技術相談窓口：第 2 技術部消設管理課 (TEL:03-3265-0235)
9	株式会社初田製作所	〒 573-1132 大阪府枚方市招提田近3-5 http://www.hatsuta.co.jp/	お客様相談窓口 TEL 0120-82-2041 各事業所 (ホームページ参照)
10	深田工業株式会社	〒 462-0809 愛知県名古屋市中区上飯田西町 3-5 http://www.fukada-kogyo.co.jp/	東京支社営業部 TEL 03-3452-2301 中部支社営業部 TEL 052-915-1100 関西営業所営業部 TEL 06-6245-6000 九州営業所営業部 TEL 092-751-5568
11	ホーチキ株式会社	〒 141-8660 東京都品川区上大崎 2-10-43 http://www.hochiki.co.jp/	営業窓口：全国の支店・支社・営業所 (ホームページ参照) 技術相談窓口：システムエンジニアリング部 (TEL 03-3444-4166)
12	モリタ宮田工業 株式会社 (宮田工業株式会社)	〒 253-8588 神奈川県茅ヶ崎市下町屋1-1-1 http://www.moritamiyata.com	お客様相談室 TEL 0467-85-1022

No.	会社名	本社所在地・URL	問い合わせ窓口
13	ヤマトプロテック 株式会社	〒 108-0071 東京都港区白金台 5-17-2 http://www.yamatoprotec.co.jp/	営業窓口：全国の支店・支社 (ホームページ参照)
14	株式会社 立売堀製作所	〒 550-0012 大阪府大阪市西区立売堀1-10-10 http://www.itachibori.co.jp/	S P 事業部 TEL：0749-85-2800
15	スリーエムジャパン 株式会社 (住友スリーエム(株))	〒 141-8684 東京都品川区北品川6-7-29 http://solutions.3m.com/ja_JP/WW2/Country/	製品責任部 TEL：042-779-2281 電子用製品技術部 TEL：042-779-2102
16	日新理化産業 株式会社	〒 367-0206 埼玉県本庄市児玉町共栄字南共和 710-4	児玉工場品質管理室 TEL 0495-72-5551
17	株式会社 宮本工業所	〒 108-0073 東京都港区三田3-4-2 http://www.miya-spk.co.jp/	技術部 TEL：03-3453-1044
18	モリタ宮田工業 株式会社 (株式会社 モリタ防災テック)	〒 105-0014 東京都港区芝2-5-6芝256ビル http://www.morita119-bt.com	モリタ宮田工業株式会社へ お問い合わせをお願いします。
19	ヤマトエンジニア リング株式会社	〒 108-0071 東京都港区白金台 5-17-2	ヤマトプロテック株式会社へ お問い合わせをお願いします。 http://www.yamatoprotec.co.jp/
20	日信防災株式会社	〒 101-0032 東京都千代田区岩本町 3-2-4 http://www.nissin-b.co.jp/	防災システム本部技術室 Tel:03-3862-4113

※その他不明な場合は、No.1(一社)日本消火装置工業会へお問い合わせ下さい。